

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	令和元年度第1回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)	小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時	令和元年5月10日(金)		
開 催 場 所	小金井市役所 第2庁舎801会議室		
出 席 者	委 員	<出席者：12名> 岡山会長・渡辺副会長、石田委員・石原委員・土屋委員・山田委員・黒須委員・齋藤委員・波多野委員・多田委員・林委員・岸野委員 <欠席者：3名> 大江委員・堀越委員・星野委員	
	事 務 局	小野ごみ対策課長・石阪中間処理場担当課長・大久保・高田・高花	
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第	1 開 会 会議録の確認 2 報 告 (1) 令和元年度一般廃棄物処理計画について (2) 小金井市災害廃棄物処理計画について 3 議 題 小金井市一般廃棄物処理基本計画の策定について 4 その他		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	<p>これより令和元年度第1回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>本日は、大江委員・堀越委員・星野委員より、欠席の連絡を事前にいただいている。</p> <p>では次に、本日の進行と配布資料についての確認を事務局よりお願いする。</p>
大久保減量推進係長	(配布資料確認)
岡山会長	<p>では、前回、平成30年度第8回審議会の会議録について、意見・修正があれば申し出ていただきたい。</p>
林委員	<p>そろそろ2019年(令和元年)のように、西暦をベースにした記載とした方が良いと思う。</p>
小野ごみ対策課長	<p>5月1日以降は令和元年度とするよう国から通知があったところである。</p>
岡山会長	<p>意見として取扱うこととする。</p> <p>では次に、一般廃棄物処理計画及び小金井市災害廃棄物処理計画について事務局より報告をお願いする。</p>
大久保減量推進係長	<p>それでは、令和元年度一般廃棄物処理計画についてご報告させていただきます。結審の後、会長と副会長ご了承の下、必要な修正を行ったうえで、平成31年2月22日に市長へ答申した。</p> <p>続いて、小金井市災害廃棄物処理計画についてご報告させていただきます。審議の中でいただいたご意見等を踏まえて、必要な修正を行ったうえで、平成31年3月29日にホームページにて公開した。</p> <p>それぞれ、できあがった計画は、皆様に送付させていただいているので、既にお手元に届いておられると思う。前年度は、両計画の審議にご尽力いただき、感謝申し上げます。事務局からは以上である。</p>
岡山会長	<p>事務局からの報告について、意見・質問はあるか。特に無いようであれば、議題に移る。</p>

(審議過程) 主な発言等

<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>それでは「小金井市一般廃棄物処理基本計画の策定」について審議に入る。本日事務局から、資料が机上に配布されている。事務局より提出された資料についての説明を求める。</p> <p>小金井市では、廃棄物の処理に関して「小金井市一般廃棄物処理基本計画」という10年にわたる長期計画を策定し、「循環型都市小金井の形成～ごみゼロタウン小金井～」を目指しているところである。発生抑制を最優先とした3Rの推進及び安心・安全・安定的な適正処理の推進を基本的な方針としつつ、集中と選択の観点から、より効果的かつ実践的なごみの減量を進めなくてはならない。循環型社会の形成を目指すとともに、各施設周辺住民及び関係者の皆様の負担を少しでも軽減できるように、より一層ごみの減量に努めていくことが必要である。</p> <p>今年度は、その長期計画の中間年度にあたり、基本計画の見直しとして、前期基本計画を踏襲しつつ、後期基本計画を策定することになるため、委員の皆様には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の規定に基づく、一般廃棄物処理基本計画と、小金井市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例の第7条第2項の規定に基づく、令和2年度一般廃棄物処理計画策定の審議をしていただく。</p> <p>基本計画の策定にあたり、策定支援をしてくださる委託業者をプロポーザル方式で選考し、パシフィック・コンサルタンツ株式会社に決定したので、ご報告させていただく。今後の審議については、パシフィック・コンサルタンツの担当者も同席し、必要に応じて発言していただくことになる。</p> <p>例年だと、10月頃に計画の諮問させていただき、2月に答申をいただいているが、そのようにするとアンケートやワークショップが終わってからとなってしまう。今年度中に新可燃ごみ処理施設の試運転が開始される予定であり、市の置かれている状況も変わりつつある中、引き続きごみの減量を推進するため、できる限り皆様に審議していただくことが可能となるように、諮問の前ではあるが、まず、基本計画の骨子とスケジュールについて説明させていただこうと考えているところである。</p> <p>策定のスケジュールについては、この後、減量推進係長より説明をさせていただく。</p>
-----------------	--

(審議過程) 主な発言等

<p>大久保減量推進係長</p>	<p>それでは「小金井市一般廃棄物処理基本計画の策定」について説明させていただく。配布資料「小金井市一般廃棄物処理基本計画の策定について（参考資料）」をご確認いただきたい。</p> <p>先ほど課長からもお話ししたとおり、今年度は、現基本計画の中間年度に当たることから、前期計画を踏襲しつつ、後期計画を策定することになる。策定のポイントとしては、前期計画を踏襲し、「発生抑制を最重要テーマとして設定」しつつ、「費用対効果等を考慮した現行施策の見直し・点検」を行い、「施策効果の積み上げによる現実的な目標値を設定」する。</p> <p>次に、基本計画策定の流れと主な審議事項については、10月までを目途に、基本計画の素案を策定するため、組成分析調査、市民アンケート調査、ワークショップを開催する。</p> <p>組成分析については、燃やすごみの調査を6月6日・7日にクリーンプラザふじみで、燃やさないごみの調査を6月18日・20日に中間処理場で実施する予定である。内容については、後ほど、調査を実施するパシフィック・コンサルタンツから説明させていただく。</p> <p>その後、7月に約3,000人の市民と200の事業所を対象としたアンケート調査の実施を予定している。</p> <p>8月には、ごみの減量と資源化の推進に向けて、現状と課題を共有するとともに解決に向けてのご意見や考えを把握するため、ワークショップを開催する予定である。ワークショップは、大人向けの他、子ども向けのものの開催も予定している。</p> <p>それぞれ、実施までの間に、審議会で報告させていただき、委員の方々のご意見等も踏まえつつ内容を決めていければと考えている。</p> <p>この他、ごみ量の将来推計や現行施策の点検・評価についても委員の方々からご意見等をいただきながら課題を整理していき、10月に諮問をさせていただく予定である。</p> <p>その後、パブリックコメントを経て、3月に答申を受けるとというのがスケジュール案となっている。</p> <p>基本計画の策定と並行して、令和2年度の一般廃棄物処理計画の策定も併せて進めていただくことになることから、昨年度に引き続き多大なるお力添えをいただくこととなると思うが、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、組成分析調査の内容について、調査を実施するパ</p>
------------------	--

(審議過程) 主な発言等

コンサルタント	シフィック・コンサルタンツから説明させていただく。 (ごみ組成調査計画書について説明)
岡山会長	事務局からの提出資料の説明について、意見・質問はあるか。
山田委員	未開封食品について、賞味期限についてチェックするのか。
コンサルタント	想定していない。
山田委員	可食部と非可食部（7，8，9）についてどのように判断するのか。
岡山会長	例えば野菜・肉・魚といった食材や、ちくわやソーセージ等の加工されたものを素材と捉えている。それに対して、食卓に上がり、食べる直前まで調理されたものを調理済みの食品と考えているので、カップ麺が出てくれば、調理済みの食品ということになる。未開封のレトルト食品も同様である。 迷うことはあるが、基本的には作業員に任せたい。
林委員	「調理済み」ではなく「加工食品」としてはだめなのか。
岡山会長	そのまま食べることができるが、かまぼこなど、切るなどして食卓にあげる段階にしたところで、切れ端等がでてきた場合は食べ残しに該当させようと考えている。まるのまま一本出てきたら、それは素材として考える。
石田委員	食べられるように加工したものが、それから先、調理するかどうかで判断すればよいのか。
岡山会長	おかずのようなものはパッケージに入っていないければ食べ残しになる。
林委員	飲み残しは見つかるのか。
渡辺副会長	ペットボトルの中に入っているようなものが出てくる。

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	<p>牛乳パックに牛乳が残っているものが出てくることもある。出てくるかどうか分からないが、項目に入れておく。</p> <p>自家製農作物についても、出てくるかどうか分からないが、時期によっては多量に出ることもあるので、念のため想定している。</p>
林委員	<p>細かく分ける意義はあるか。どういう用途なのか。これを使ってどのように計画に生かすのか。</p>
岡山会長	<p>可食で捨てられているものは、何が多いか、どのようなものが捨てられやすいかという傾向が見て取れる。素材がたくさん出ているようであれば、素材の保存方法を教えることで発生抑制ができる等、政策に対してのアプローチがしやすい。</p>
渡辺副委員長	<p>食べ残しに関しては、残さず食べる、分量を考えて調理する等、異なるアプローチになる。</p>
多田委員	<p>5番（物理的可食）はどういう意味か。</p>
岡山委員長	<p>例えば、キャベツなどの上葉や大根の皮等が大量に排出される。食べようと思えば食べることができるが、普段あまり食べないようなもののことを指し、物理的には食べられるもののことである。</p>
渡辺委員	<p>食べようと思っていたのに捨てたのか、もともと食べる意思がなく、意図的に捨てたのかということを経験する。</p>
石原委員	<p>居住形態別・事業所とあるが、事業所はどのような位置づけか。前回から踏襲しているとの理解で良いか。</p>
大久保減量推進係長	<p>現計画策定時の調査対象地域と同じ地域の事業所である。</p> <p>事業所の種類の指定はしておらず、事業所が多い地域で、事業系袋で出してもらっている事業者を想定している。</p> <p>調査対象地域は、前回からの比較ということもあり、変えていない。複数の回収場所から採取し、ばらつきが無いようにしている。</p> <p>分類項目について補足させていただくと、前回調査時は、厨</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>芥類は3種類だけだったが、出てくるものによって施策が異なるという観点から、会長からのアドバイスを踏まえ、項目を増やした。出し方としては、比較しやすいという観点から、大きな項目としたいと考えている。調査結果を見て、ご意見をいただければと思う。</p>
石田委員	<p>細項目に関して個別に基礎データをとるとのことか。</p>
林委員	<p>前回の項目でもわかりやすい。作業のわりに、結果をフィードバックできる内容があるのか。</p>
岡山会長	<p>環境省で30自治体の食品ロス調査をした際の項目は、もっと多い。できるだけシンプルに誤解が無いような方法を研究室で考えて、某区で実施した結果、国の調査とも整合性がとれているので、この方法がよいかと思う。</p>
山田委員	<p>可食部はどの項目に当たるのか。</p>
岡山会長	<p>食品ロスとして考えているのは1, 2, 3, 4, 7, 8, 9, 10, 11である。</p>
山田委員	<p>5の項目は具体的にはどのようなものか。</p>
岡山会長	<p>物理的に可食である、大根の皮のようなもの。優先順位は低いと想定している。非可食部は卵の殻や魚の骨など。果物の皮は非可食、野菜の皮は潜在可食と分けている。</p>
石田委員	<p>実効的に考えたらほとんど効果がないから、優先順位は低いということか。</p>
岡山会長	<p>未利用食品と未開封食品は同じものを指しているのだが、未開封食品は分けやすいので分けている。</p>
多田委員	<p>検体数について、4検体ごとに50袋ずつという理解で良いか。</p>
岡山会長	<p>そうである。</p>

(審議過程) 主な発言等

多田委員	33は34も含まれると思うが。
岡山会長	34の袋は、スーパーマーケットでロールになっている、豆腐を入れるような薄手の袋や野菜等の食材が入っていた袋の類のことであり、33は本屋、服屋等で無料配布されるしっかりした作りの手提げ型の袋のことを想定している。
石田委員	レジ袋の量をつかみたいというのが狙いであるという理解で良いか。
岡山会長	その通りである。
石原委員	区別する趣旨は何か。
岡山会長	容器包装プラスチックを集めているので、本来の分別区分上は可燃ごみではないのだが、混入率を確認したいという趣旨である。
渡辺副会長	スーパーマーケットのレジ袋だけ有料化した場合、まだ有料化しきれない部分がどのくらいあるのかということ。
多田委員	未開封食品で包んでいた袋は34ではないのか。
渡辺副会長	食材だけ取り除くのが難しい、こびりついていて汚れが多いものもあるので、開封しない方針である。
岸野委員	データが出たら、今後も定期的に調査するのか。
渡辺副会長	5年に1回は調査してほしいと思う。
石田委員	確認であるが、未開封食品については、処理する際はそのまま処理するのか。
岡山会長	そのまま処理する。
岸野委員	廃食油は、固めたもの以外に染み込ませたものもあるが。

(審議過程) 主な発言等

渡辺副会長	油がしみ込んでいる布や紙も含める。
石原委員	56はどのように理解すればいいのか。
渡辺副会長	環境省が小型家電として指定している品目以外のものである。
岸野委員	57の複合製品とはどのようなものを想定しているのか。
大久保減量推進係長	56についてであるが、小金井市で廃棄物として出されている小型家電は、ほぼ全てが環境省の家電リサイクル法で指定されている品目のものである。前回の調査でも、それ以外のものは出てきていなかった。
小野ごみ対策課長	複合製品とは金属とプラスチックが合わさっているようなもののことである。洗濯ばさみなどが結構出てくる。傘や包丁なども複合製品である。
岸野委員	豆電球はどこに入るのか。
渡辺副会長	蛍光灯等に入ると思う。
林委員	前回調査は湿ベースだったが、今回は湿ベースである旨の記載は必要ないのか。
渡辺副会長	結果を報告していただく際は湿ベースと記載していただければいいと思う。
多田委員	ボタン電池やリチウムイオン電池はどこに分類されるのか。
岡山会長	乾電池に分類することになると思う。
多田委員	陶磁器と陶磁器でないものは分かると思うので、分けた方が良いのではないかと。
岡山委員長	施策として陶磁器の資源化をやろうとしているところでは

(審議過程) 主な発言等

	ないため、分けない方針でよいと思う。
岡山会長	料理をされている方は、この分類項目で理解しやすいか。
波多野委員	分類する方が男性か女性かで結果が変わってくるのではないかと思う。
岡山会長	普段料理をしていない学生達と実施したが、大きな違いはなかった。そういった意味では、男女による大きな差はでないと思う。
多田委員	40のくつ・かばん・ベルトはどのようなものを想定しているのか。
渡辺副会長	ゴム・皮革類以外の素材でできているものをご理解いただきたい。
林委員	作業工程について、前は9日間に対し、今回は4日間となっているが、前日よりも短期間でやるということか。
大久保減量推進係長	分類をするのが4日間というだけであり、収集日も加味すれば前回と実質的には変わらない。 調査は委託業者になるが、市の職員も立ち会うので、わからないものは市の職員でも判断していきたい。
渡辺副会長	アンケート調査に関しては、次回の審議会で内容が示されるということで良いか。
大久保減量推進係長	次回までに詳細を決めてご報告させていただきたい。
岡山会長	6月は平成30年度の評価も実施する予定である。
岸野委員	アンケート調査はどのような方法で実施するのか。
大久保減量推進係長	前は紙ベースのみだったが、今年度はコンサルタントの提案で、インターネットで回答できるようにしようと考えてい

(審議過程) 主な発言等

コンサルタント	<p>る。</p> <p>前回よりも回収率を高めて、ご意見を反映できればと考えている。</p> <p>インターネットを利用してアンケートを実施するためには、「こういう訊き方をしなければいけない」といった、システム上の制約があるので、そこはご了承いただきたい。</p>
林委員	<p>組成分析結果を施策につなげることになると思うが、素案をコンサルタントにつくっていただくにあたって、どういう情報に基づいて作成されるのか。現行計画も間違っているわけではないので、大きく変更されることはないと思うのだが。</p>
岡山会長	<p>評価に際しては、計画の立て方についての課題が毎年出てくる。現行計画では施策と事業が混在しているため、評価しやすいように組み立てることができればと思う。</p>
大久保減量推進係長	<p>施策評価についてはコンサルタントにも渡している。客観的な観点から意見をいただくということもあるし、その一方で、今までの流れもある。それは市からコンサルタントに伝えており、それらのバランスをとったうえで、計画を策定していきたいと考えている。</p>
林委員	<p>6月の評価結果が最新の情報として伝わるとの理解で良いか。</p>
大久保減量推進係長	<p>その通りである。</p>
石原委員	<p>減量という前提の他にコストのこともある。環境省から一般廃棄物会計基準が出ているが、小金井市ではどういった基準となっているのか。一般市民が見ることができるのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>小金井市では環境省に準じたものではなく、小金井市独自のものであり、清掃事業概要でお示しをしている。会計基準については公表していない。環境省の基準に準じたものとするのは現時点では困難である。</p>

(審議過程) 主な発言等

石原委員	変えていこうとする努力はするのか。
小野ごみ対策課長	小金井市の会計基準は環境省の基準に近いので、変えていこうと思えば変えることはできる。しかし、変えた途端に大きく数値が変わることになってしまうので、全国一斉に環境省の会計基準を摘要するようなことにならない限り、難しい。
コンサルタント	環境省でも会計基準の見直しを検討しているようであるが、環境省の基準に準じるようにといった通知は発出されていない。
岡山委員長	会計基準は、事業系一般廃棄物の手数料をいくらにするのか算定するために処理原価を把握するということが目的である。 自治体によって置かれている状況が違うので、基準を統一することが良いのかということもある。
渡辺副会長	計画を策定したときに「ごみの数値を1年に1%ずつ減らす」というような形にしてしまい、実績値と乖離が出てしまった。今後も同じような枠組みにするのか、それとも、前年度比のような枠組みも考えているのか。
コンサルタント	総量ベースにするのか、原単位から推計するのかといった方法については、市と相談しながら決めていきたい。
渡辺副会長	人口変動があるので、原単位で推計することになるかと思うが、5年、10年に1回の計画となるため、計画を運用していくと、目標値と実績値に乖離が発生してくる。将来の推計値は、目標値に対して直線的に補完をするやり方と、前年度比何%減といったやり方があるが、どのように考えているか。
大久保減量推進係長	その辺りも柔軟に変更する余地はある。小金井市が置かれている現状もあるため、対外的にどういった決め方をするのかといったことも含めて検討しなければならないと考えている。
コンサルタント	それぞれのメリット・デメリットも考えながら決めていきたい。

(審議過程) 主な発言等

林委員	今までは政策誘導的な設定があった。これからは3市共同処理が始まるが、これをどのように継続するか。人口も予想以上に増えているようなので、設定が難しいと思うが、柔軟に立てることができればいいと思う。
山田委員	組成分析の結果も推計に反映するのか。
大久保減量推進係長	結果のみであれば、1ヶ月～1ヶ月半程度でお示しすることはできる。
山田委員	推計で量を推定できれば、施策に繋げ、基本計画に反映できるのではないか。
多田委員	パブリックコメントには、組成調査の結果、アンケート調査の結果、ワークショップの結果を載せるのか。
大久保減量推進係長	パブリックコメントは、計画に対してご意見をいただくことを想定しているので、調査等の結果を示すかどうか、現段階では答えることができない。
多田委員	アンケート調査は、1人が複数回答してしまうのはよくない。
コンサルタント	そうした可能性もある。注意喚起するとともに、結果が全く同じ内容であれば排除することもあるかと思う。
多田委員	通し番号を付すといった管理はできないか。
コンサルタント	そういった対応可能である。
石田委員	皆さんの考えを伺うものなので、重複回答があっても、あまりは影響ないのではないか。
渡辺副会長	アンケートの送付は紙ベースで郵送するのか。
大久保減量推進係長	無作為抽出した対象者へ、無記名アンケートを郵送する予定

(審議過程) 主な発言等

林委員	である。 処理計画は従来どおり進めるということで良いか。
渡辺副会長	その通りである。
林委員	出来れば、処理基本計画の内容を先取りして処理計画に反映できるとよい。
岡山会長	新しい基本計画の策定を意識して議論を進めていきたい。 最後に、その他、事務局から報告があればお願いしたい。
大久保減量推進係長	組成分析調査について、燃やさないごみの調査は市の施設を使用するため立ち合いは可能である。ご希望があれば事務局に連絡をいただきたい。 また、審議会委員のうち4名は、3市市民会議に参加しているが、今年度より小委員会を設立し、具体的な協議・議論をいただいているところである。その協議結果も審議会にフィードバックしていただき、反映できるところは反映したい。 次回の審議会は、6月27日(木曜日)18時から、本と同じくこちらの801会議室で開催を予定している。後日、改めてご連絡させていただく。 また、次回の審議会では、「平成30年度施策の実績報告」を議題とさせていただく予定である。そのため、審議会開催前に、委員の皆様から評価をいただく必要があるので、ご協力をお願いしたい。実施時期は、6月第2週目頃になるかと思う。
石田委員	3市市民会議の協議結果を具体的にどのようにフィードバックすればよいのか。
小野ごみ対策課長	小委員会設置後になると思うが、情報共有したほうがよいと思った内容があればフィードバックしていただきたい。
石田委員	情報共有については、事務局から報告してもらって、参加している委員が補足することなのか。

(審議過程) 主な発言等

大久保減量推進係長	事務局からの情報提供が前提と考えていただければと思う。
岡山会長	その他、事務局から何かあるか。ないようなので、以上をもって審議会を終了する。